






# 研修の様子【概要】

研修名	しまねの社会教育基礎講座（浜田会場）							
日時	令和6年7月10日（水）							
場所	大田市民センター							
テーマ	「集って」「楽しむ」からの動きをつくる							
	受付	開講行事	【講義】 (50分) 社会教育の役割と 県社会教育で大切 にしたいこと	休 憩	【事例発表等】 (60分) 社会教育実践 から学ぶ (事例発表/ふりかえり)	昼 食 休 憩	【演習】 (120分) 自分に できることを 考えよう！	閉 講 行 事
	9:30 10:00 10:10				12:10 13:10			15:10
内容	<p><b>【講義】「社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと」</b>          県社会教育課 社会教育スタッフ 調整監 福本 修司</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会教育の基礎知識</li> <li>2. しまねの社会教育</li> <li>3. 社会教育の担い手は？</li> <li>4. 社会教育を進めるみなさんへ</li> </ol>  <p><b>【事例発表等】社会教育実践から学ぶ 「楽しいことするけえ来てみちゃん祭～三保まちサロン交流会～」</b>          浜田市三保まちづくりセンター 主事 高松 絵美 氏（R5年度公民館等職員研修受講生）</p> <p>自治会の中でサロン活動をしていない所がある、コロナの影響で地域の人が集まらなくなりコミュニケーションが減ってきた。「何か楽しいことないかね」の声を事業の種に、サロンを開くことにする。一緒にやってもらいたい人に、サロンの必要性や思いを伝え仲間になってもらう。民生児童委員も加わった。実行委員会を重ねていくうちに、仲間に自主性が生まれアイデアを出し活発に動く姿が見られた。チーム名を決めたり、ポロシャツを揃えるなどつながりも生まれてきたと思う。仲間の変容は事業後のアンケートからも伺えた。後日、新聞に、サロンに参加して楽しかったという感想が掲載された。今年度、仲間から「今年もやるんだろう」の声や、違うフィールドで動き出す姿が見られた。相手に思いや目的をしっかりと伝える、頑張り過ぎずみんなで作ることの大切さを感じた。（発表資料より）</p>   <p><b>【演習】「自分にできることを考えよう！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇住んでいる(勤務している)地域の現状(良さ・課題)を付箋に書き、グループで紹介し合う。</li> <li>◇地域が10年後どうなっているといいかを付箋に書き、「理想の地域像」を紹介し合う。</li> <li>◇「理想の地域像」を実現するために何が必要か、できるかを考える。実際に取り組みそうなものを丸で囲む。</li> <li>◇理想の地域像に向け、自分と地域の人と取り組みたいことを書く。</li> </ul>   <p><b>【ふりかえり】</b> 研修をふりかえって、思ったこと・感じたこと・これからに向けて一言</p>							
受講生の感想 (アンケート一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育とは？と聞かれてすぐには思いつかなかったが、講義と事例発表の中で「自分が置かれた場所でのつながりを感じ幸せを感じていく」そこから地域の地盤ができ、地域力が蓄えられ地域課題に向かっていくという言葉が心に残った。</li> <li>・事例発表を聞き「地域の人を育てる」ことの大切さを学んだ。</li> <li>・活動を通して参加者が学びとつながりを生み次へつなげていくことができるように、今後に生かしていきたい。</li> <li>・知らない人とのグループワークは気づきの連続だった。みんな地域のことを真剣に考えておられ感心した。これからももっと楽しんで地域活動に取り組みたい。</li> <li>・演習では同じテーマでも見方の違いで自分では気づかない意見が多くあった。</li> <li>・演習は、みなさんの話が聞け意見交換もたくさんできて有意義な時間が持てた。</li> </ul>							